就実大学大学院・就実大学の中期目標・中期計画に基づく各部局年度計画及び実行計画と達成状況

学科名：　大学院医療薬学研究科

計画:2019年5月10日／中間報告:2019年9月30日／最終報告:2020年3月31日

中　期　目　標	中　期　計　画	部局及び学科における2019年度計画と実行内容		計画達成状況
		2019年度計画	2019年度実行内容	
	中期目標に対する中期計画の具体的項目	各部局で、中期目標・中期計画に基づいて計画する（具体的に期限やレベルなど数値目標を挙げて定量的に記載する）	（2019年度計画の具体的実行内容を具体的に期限やレベルなど数値目標を挙げて定量的に記載する）	年度の中間及び年度末に計画の達成状況を評価する。　該当する項目については、セルを分割して、上段に中間報告、下段に最終報告を記載する。
［理念・目的］ 教育の理念・目的に基づき、人材育成の目的、その他の教育研究上の目的を適切に設定し公表するとともに、それを実現するために将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を明確にする。	理念・目的を適切に設定し、その適切性について、定期的に検証する。	年度毎にマニフェストを作成し、その際に設定・検証を行う。	本年度のマニフェスト作成時に検証し、修正・改善したマニフェストを作成する。	5月に、本年度のマニフェストを検証し、修正・改善したものを開示した。
				5月に、本年度のマニフェストを検証し、修正・改善したものを開示した。加えて，マニフェストに基づいて本年度に実行した内容を大学改革有識者懇談会にて説明した。
	理念・目的を及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表する。	研究科の目的を適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に公表する。	履修要覧、ホームページ、マニフェスト等により、教職員および学生に周知し、社会に公表する。	履修要覧、ホームページ、マニフェストにより、教職員および学生に周知し・社会に公表した。
				履修要覧、ホームページ、マニフェストにより、教職員および学生に周知し・社会に公表した。
	理念・目的を及び学部・研究科の目的を実現していくため、将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定する。	マニフェストの中に将来を見据えた中・長期計画を折り込み、着実に実施していく。	本年度のマニフェスト作成時に、将来を見据えた中・長期計画を加え、順次、実施していく。	大学全体の中長期計画や大学院マニフェストの中で、将来を見据えた施策を設定した。
				大学全体の中長期計画や大学院マニフェストの中で、将来を見据えた施策を設定した。
［内部質保証］ 教育の理念・目的を実現するために、内部質保証システムを構築し、恒常的・継続的に教育の質の保証及び向上に取り組む。	内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備し、内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示する。	内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備し、内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示する。	FD研修会での学修内容や薬学部等での取り組み事例を参考にして，大学院においても体制整備の準備を進めていく	大学院における内部質保証に向けて，PDCAサイクルシート作成等の方策を具体化する。
	内部質保証の方針及び手続に基づき、	内部質保証の方針及び手続に基づき、	内部質保証の方針及び手続に基づ	大学院内に設けた委員会組織を活

	自己点検・評価を改革・改善に繋げる内部質保証システムが有効に機能しているか検証する。	自己点検・評価を改革・改善に繋げる内部質保証システムが有効に機能しているか検証する。	き、自己点検・評価を改革・改善に繋げる内部質保証システムが有効に機能しているか検証する。	用してPDCAサイクルシートを作成し，内部質保証システムの有効性を計るための資料とする。
	教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たす。	大学院の教育研究活動を、就実学術成果リポジトリーや就実薬学雑誌で公表すると共に、大学基準協会による指摘事項に適切に対処していく。	学位授与後、すみやかに学位論文の審査結果、要旨、学位論文全文を就実大学リポジトリーにて公表する。また、教員の教育研究活動を就実大学薬学雑誌やHPにて公表する。	学位論文審査結果、要旨および学位論文全文をリポジトリーで公表した。教員の教育研究活動は、就実大学薬学雑誌やHPにて継続的に公表する。
				学位論文審査結果、要旨および学位論文全文をリポジトリーで公表した。教員の教育研究活動は、就実大学薬学雑誌やHPにて継続的に公表した。
	内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行う。	内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行う。	大学院内の委員会ごとにPDCAサイクルシートを作成し，自己点検評価の有効性を確認する。	大学院内に設けた委員会組織ごとにPDCAサイクルシートを作成し，これを自己点検評価のための資料とする。
［教育研究組織］ 教育の理念・目的を実現するために、適切な教育研究組織を整備する。	教育研究組織を適切に設定し、学術の進展や社会の要請との適合性について、定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行う。	本年度から2名が新たに大学院教員に加わり、複数の構成メンバーからなる研究室が増えている。今後も、新たに赴任予定の薬学部教員に大学院への参入を呼び掛けるなどして、時代に即した充実した教育研究組織となるように整備を進めて行く。	本年度から2名が新たに大学院教員に加わり、複数の構成メンバーからなる研究室が増えている。今後も、新たに赴任予定の薬学部教員に大学院への参入を呼び掛けるなどして、時代に即した充実した教育研究組織となるように整備を進めて行く。	大学院教員として新たに複数の教員が加わり、その事に伴う組織の整備・配置を適切に行った。
				大学院教員として新たに複数の教員が加わり、その事に伴う組織の整備・配置を適切に行った。
［教育課程・学修成果］ 教育の理念・目的を実現するために、学位授与方針（ディプロマポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学修成果の修得状況を把握し評価して、学位授与を適切に行う。	教育目標に基づく学位授与方針を設定し、公的刊行物やホームページ等によって、教職員及び学生に周知し、社会に公表する。	ディプロマポリシーについて、継続的に教職員・学生に周知し、ホームページ等によって社会に公表する。	ディプロマポリシーについて、継続的に教職員・学生に周知し、ホームページ等によって社会に公表する。	ディプロマポリシーを履修要覧、ホームページ等によって周知・公表した。
				ディプロマポリシーを履修要覧、ホームページ等によって周知・公表した。
	教育目標・学位授与方針に基づく教育課程の編成・実施方針を設定し、公的刊行物やホームページ等によって、教職員及び学生に周知し、社会に公表する。	履修要覧やホームページを介して周知・公表する。	履修要覧やホームページを介して周知・公表する。	カリキュラムポリシーを履修要覧、ホームページ等によって周知・公表した。
				カリキュラムポリシーを履修要覧、ホームページ等によって周知・公表した。

教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について、定期的に検証する。	教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について、定期的に検証していく。	本年度のマニフェスト作成の際に、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について、定期的に検証を行う。	マニフェスト作成時に、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について検証した。
			マニフェスト作成時に、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について検証した。
教育課程の編成・実施方針に基づき、学部・学科に応じたカリキュラムマップやツリーを作成して、必要な授業科目を適切に設定し、接続性や順次性のある教育課程を体系的に編成する。	教育課程の編成・実施方針に基づき、学部・学科に応じたカリキュラムマップやツリーを作成して、必要な授業科目を適切に設定し、接続性や順次性のある教育課程を体系的に編成する。	教育課程の編成・実施方針に基づき、学部・学科に応じたカリキュラムマップやツリーを作成して、必要な授業科目を適切に設定し、接続性や順次性のある教育課程を体系的に編成する。	研究科としての取り組みについて、点検・評価を行って下さい。
			従来のカリキュラムツリーをより適切で継続性・順次性のあるものにするために，教育開発センターアドバイザーの池田先生作成の資料を題材に見直しに向けてのアドバイスを受けた。次年度より本資料を基にカリキュラムツリーの見直しを進める。
コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた大学院教育を行う。	所属する分野（最適薬物療法学分野または病態解析診断薬学分野）の科目を5科目以上選択することでコースワークを学び、必須科目として医療薬学特別講義および所属する分野の演習講義（最適薬物療法学演習または病態解析診断薬学演習）により、リサーチワークを円滑に実施できるようにする。	コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせて大学院教育を実施していく。	コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせて大学院教育が円滑に実施されている
			コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせて大学院教育を円滑に実施した
教育目標の達成に向けた授業形態、学生の主体的参加を促す授業方法（アクティブラーニング）など、学修指導を充実する。	教育目標の達成に向けた授業形態、学生の主体的参加を促す授業方法（アクティブラーニング）など、学修指導を充実する。	教育目標の達成に向けた授業形態、学生の主体的参加を促す授業方法（アクティブラーニング）など、学修指導を充実する。	研究科としての取り組みについて、点検・評価を行って下さい。
			博士課程における研究活動自体が院生の主体的学修を促すアクティブラーニングそのものであり，この考えに沿って研究指導教員を中心に継続的に学修指導を徹底した。
教育効果を上げるための多様な手段の導入と情報ネットワークを利用した教育システムへ展開し、キャンパ	教育効果を上げるために研究倫理や情報収集の在り方などについて学修する機会を作る。また、情報ネット	教育効果を上げるために研究倫理や情報収集の在り方などについて学修する機会を作る。また、情報ネットワークを利用した教育・研究情報の	全学の研究倫理研修会が開催され、研究倫理の在り方について学修する機会を得た。また、個々の研究テーマに沿って、情報ネットワークを利用した教員間あるいは教員－院生間の研究討議や情報交流活動等が活発に行われている。

た教育システムを展開し、インターンシップ外教育を推進する。	ワークを利用した情報交流の仕方についても協議・検討していく。	ークを利用した教育・研究情報の交換の仕方についても協議・検討していく。	大学院独自の研究倫理研修会を開催し，研究者に必要不可欠な研究倫理の考え方について学修する機会を得た。加えて、情報ネットワークを利用した教員相互，教員－院生間の研究討議や情報交流活動が活発に実施されている。
授業の目的、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式で作成し、公表する。	シラバスを統一した書式で作成し、公表する。	シラバスを統一した書式で作成し、公表する。	シラバスを統一した書式で作成し、公表した。 本学教務課が設定した書式に従って，シラバスを統一した書式で作成し、これを公表した。
シラバスの内容と授業内容・方法との整合性を取り、シラバスに基づく授業を行う。	シラバスの内容と授業内容・方法との整合性を取り、シラバスに基づいた講義を展開する。	シラバスの内容と授業内容・方法との整合性を取り、シラバスに基づいた講義を展開する。	シラバスの内容と授業内容・方法との整合性を取り、シラバスに基づいた講義を展開している。 シラバスの内容と授業内容・方法との整合性を取り、シラバスに基づいた講義を展開している。
厳格な成績評価を実施するシステムと制度を構築し、学生学修力の向上と教育の質の改善を図り、単位制度の趣旨に基づく成績評価、単位認定を適切に行う。	単位制度の趣旨に基づく成績評価、単位認定を適切に行う。	成績評価と単位認定を適切に行なっていく。	成績評価と単位認定を適切に行なっている。 学位授与をはじめとして，成績評価と単位認定を適切に行なっている。
学修成果を測定するための評価指標（ルーブリック評価など）を適切に設定し、学位授与（卒業・修了認定）を適切に行う。	明文化された学位論文審査基準に基づいて、学位授与を適切に行う。	既に学位論文審査基準を明文化しているので、これに基づいて学位授与を適切に行う。	明文化された学位論文審査基準に基づいて、学位授与を適切に行っている。 明文化された学位論文審査基準に基づいて、学位授与プロセス（論文審査，口述発表審査など）を適切に運用し，3名の学位授与者を社会に送り出した。
授業評価アンケートや相互授業参観などにより、教育成果について定期的な検証を行い、その結果を授業の内容及び方法の改善に反映させる。	授業評価アンケートや相互授業参観などにより、教育成果について定期的な検証を行い、その結果を授業の内容及び方法の改善に反映させる。	授業評価アンケートや相互授業参観などにより、教育成果について定期的な検証を行い、その結果を授業の内容及び方法の改善に反映させる。	教務担当の委員会組織を大学院に設置した。次年度は，本委員会を中心にして，学部で実施されている相互参観授業を大学院にも拡充することによって教育方法の充実につなげる

	教育内容・方法等の改善を図るために、組織的な研修・研究の機会を設ける。	大学院内に独自に設けた自己点検・FD組織を活用して、研修会開催を通じて教育内容・方法等の改善を図っていく。	大学院内に独自に設けた自己点検・FD組織を活用して、研修会開催を通じて教育内容・方法等の改善を図っていく。	大学院内に個別に自己点検・FD組織を設置し、これを中心にして組織的なFD研修会を開催し、教育内容・方法等の改善をはかった。
				大学院内に個別に自己点検・FD組織を設置し、これを中心にして組織的なFD研修会を5月に開催し、教育内容・方法等の改善をはかった。
	学位授与にあたり学位論文審査の基準を適切に設定し、学生に明示する。	学位論文審査基準を適切に設定し、公開する。	今年度の履修要覧にも明記すると共に、ホームページ等でも学位論文審査基準を明示する	
				研究会委員会で承認を受けている学位論文審査基準を，本年度の履修要覧に明示して院生に周知した。
［学生の受け入れ］ 教育の理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を明示し、その方針に沿って適切な入学者選抜制度により公正な受け入れを行う。（留学生を含む）	求める学生像、学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）を設定し、公的刊行物やホームページ等によって、受験生に周知し、社会に公表する。	大学院説明会やオープンラボ、地域連携教育講座、ホームページなどを通じて、求める学生像や受け入れ方針に関する情報を周知する。	大学院説明会やパンフレット、オープンラボ、地域連携教育講座、ホームページなどを通じて、求める学生像や受け入れ方針に関する情報を周知していく。	学生募集要項、ホームページ、地域連携教育講座、初年次ゼミナールなどを通じて、求める学生像や受け入れ方針に関する情報を周知した。
				学生募集要項、ホームページ、地域連携教育講座、初年次ゼミナールなどを通じて、求める学生像や受け入れ方針に関する情報を周知した。
	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施する。	大学院入試担当の組織委員を設定し、公正な入学者選抜を実施する。	大学院入試担当の組織委員を設定し、公正な入学者選抜を実施する。	大学院入試担当の委員組織を設定した。本組織を中心に公正な入学者選抜を実施していく。
				大学院入試担当の委員組織を設定し，本組織を中心に公正な入学者選抜を実施し，3名の新規入学者を確保した。
	適切な定員を設定し、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。	適切な定員確保のために、新卒者ならびに医療従事者の大学院進学を促す。	新卒者ならびに医療従事者の大学院進学を促し、定員が確保できるよう努める	全学年定員16名のところ、11名在籍している。休学・退学者はない。
				全学年定員16名のところ、11名在籍している。休学・退学者はない。

	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行う。	学生の受け入れの適切性について点検し、改善に向けた取り組みを行う。	入試（小論文等）にルーブリック評価を導入するなどして、公正で適切な学生受け入れをはかると共に向上に向けた取り組みを行う。	入試（小論文等）にルーブリック評価を導入するなどして、より公正で適切な学生受け入れをはかると共に、入試担当委員を中心に点検評価を行っていく。 入試担当委員を中心にして，入試（小論文等）にルーブリック評価を導入したり，口述試験の際に評価視点を設けるなどして、より公正で適切な学生受け入れをはかった。
［教員・教員組織］ 教育の理念・目的を実現するために、求める教員像や教員組織の編制方針を明確にし、それに基づく教員組織を整備するとともに、ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）活動を実施して絶えず教員の資質向上に取り組む。	教員に求める能力・資質、教員構成、教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在など、各学部･研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示にする。	教員の組織的な連携体制ならびに小講座制を目指して教員組織の編成を検討していく。	教員の組織的な連携体制ならびに小講座制を目指して、弾力的な教員組織の編成・連携体制を検討していく。	本年度は新たに2名の教員が大学院に加わった。今後も、新たな大学教員の拡充をはかると共に、組織的な連携体制ならびに小講座制の確立を目指して、弾力的な教員組織の編成を行っていく。→大学院教員としての審査に係わるので、研究科の教員組織の編制方針を設定すること。 大学院医療薬学研究科の教員組織の編制方針を策定した。今後は，本方針に基づいて，組織的な弾力的な講座連携をはかり，大学院の教育研究体制を活性化させていく。
	教育課程・編制方針に基づき、教育研究活動を展開するため、授業科目と担当教員の資格・適合性を明確にして、教員組織を適切に編制する。	大学院教員としての資格審査を実施する体制整備と共に、カリキュラムポリシーに沿った教員の適正配置に取り組む。	大学院教員としての資格審査を実施する体制整備と共に、カリキュラムポリシーに沿った教員の適正配置をに取り組む。	大学院教員としての資格審査制度を整備し、カリキュラムポリシーに沿った教員の適正配置を行っている。 大学院教員としての資格審査制度を整備し、カリキュラムポリシーに沿った教員の適正配置を行っている。
	教員の募集・採用・昇格等に関する規定及び手続きを明確にして、適切な教員人事を行う。	大学院教員資格審査に関する内規に基づいて、適切な教員人事を行っていく。	大学院教員資格審査に関する内規の整備を行い、継続的に教員人事を行なう。	大学院教員資格審査に関する内規の整備を行い、継続的に教員人事を適切に行っている。 大学院教員資格審査に関する内規の整備を行い、継続的に教員人事を適切に行っている。

	ＦＤ活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上を図る。	大学院内に独自に設けた自己点検・FD組織を活用して、研修会開催を通じて教育内容・方法等の改善を図っていく。	大学院内に独自に設けた自己点検・FD組織を活用して、研修会開催を通じて教育内容・方法等の改善を図っていく。	大学院内に個別に自己点検・FD組織を設置し、これを活用して研修会開催を開催し、教育内容・方法等の改善をはかった。
				大学院内に個別に自己点検・FD組織を設置し、これを活用して研修会開催を開催し、教育内容・方法等の改善をはかった。
	教育研究活動等、教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行う。	教育研究活動、教員組織の適切性について定期的に点検・評価・改善を行なう。	学部における教育研究活動評価に基づいて、これと連動した形で実施する。	薬学部における教育研究活動評価に連動した形で、定期的に実施していく。
				薬学部における教育研究活動評価に連動した形で、定期的に実施していく。
［学生支援］ 教育の理念･目的を実現するために学生支援に関する方針を明確にし、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、修学支援、生活支援および進路支援を適切に行う。	学生に対する修学支援、生活支援、進路支援など、学生支援に関する方針を明示する。	大学院の中に学生支援担当の組織を設置し、修学支援や生活支援、進路支援などの方針を明示した上で支援に取り組む。	大学院の中に学生支援担当の組織を設置し、修学支援や生活支援、進路支援などの方針を明示した上で支援に取り組む。	大学院の中に個別に学生支援担当の委員組織を設置した。必要に応じて研究指導教員と連携して、修学、進路、生活指導等の項目について支援に取り組む。
				大学院の中に個別に学生支援担当の委員組織を設置した。この委員会組織と研究指導教員が連携することによって、より積極的に修学、進路、生活指導等の項目について支援することが可能となった。
	学生学修意欲喚起や学修時間の確保に向けての学修e-ポートフォリオの導入で、学修支援を推進する。	学生学修意欲喚起や学修時間の確保に向けての学修e-ポートフォリオの導入で、学修支援を推進する。	学生学修意欲喚起や学修時間の確保に向けての学修e-ポートフォリオの導入で、学修支援を推進する。	学修支援を目的としたe-ポートフォリオは未導入であるが，必要に応じて個別にスカイプ等を活用した遠隔指導を行っている。
	留年者及び休･退学者の状況を把握し、低減に向けての部局での方策を検討し、適切に対処する。	研究指導教員および大学院内に設置した学生支援担当の組織委員が中心となって、休・退学者がないようにきめ細かな指導を行っていく。	研究指導教員および大学院内設置した学生支援担当の組織委員が中心となって、休・退学者がないようにきめ細かな指導を行っていく。	研究指導教員および大学院内設置した学生支援担当の組織委員が中心となって、休・退学者がないようにきめ細かな研究指導を行うことを周知している。
				研究指導教員および大学院内設置した学生支援担当の組織委員が中心となって、休・退学者がないようにきめ細かな研究指導を行うことを周知している。

リメディアル教育や高大連携による入試前教育に関する支援体制を整備し、適切に実施する。	リメディアル教育や高大連携による入試前教育に関する支援体制を整備し、適切に実施する。	リメディアル教育や高大連携による入試前教育に関する支援体制を整備し、適切に実施する。	大学院生の大半が社会人として職に就いており，今後のキャリアパスに活用できるよう研究指導教員を中心に指導を行っている。
障がいのある学生に対する支援体制を整備し、修学支援措置を適切に行う。	障害がある院生が在籍した場合に備えて、研究指導教員および院内設置した学生支援担当の組織委員が中心となって適切な修学支援措置を講じる。	障害がある院生が在籍した場合に備えて、研究指導教員および院内設置した学生支援担当の組織委員が中心となって、適切な修学支援措置を講じる。	障害がある院生が在籍した場合に備えて、研究指導教員および院内設置した学生支援担当の委員組織を設置した。必要に応じて、今後は組織が中心となって適切な修学支援を講じる予定である。
奨学金等をを通じた経済的支援の充実を図り、安定した学生生活の実現に努める。	研究指導教員および大学院院内に設置した学生支援担当の組織委員が中心となって、経済的支援の充実を図っていく。	研究指導教員および院内設置した学生支援担当の組織委員が中心となって、経済的支援の充実を図っていく。	経済支援対策を含む安定した学生生活を送れるように、院内に学生支援担当の委員組織を設置した。必要に応じて、今後は本組織が適切な修学支援措置を講じていく。
			経済支援対策を含む安定した学生生活を送れるように、院内に学生支援担当の委員組織を設置した。必要に応じて、今後は本組織が適切な修学支援措置を講じていく。
心身の健康保持・増進及び安全・衛生へ配慮するとともに、学生の人権を保障し、ハラスメント防止のための措置を適切に行う。	研究指導教員および大学院内に設置した学生支援担当の組織委員が中心となって、院生の健康・衛生への配慮に努めると共にハラスメント防止に取り組んでいく。	研究指導教員および院内設置した学生支援担当の組織委員が中心となって、院生の健康・衛生への配慮に努めると共にハラスメント防止に取り組んでいく。	学生支援担当の委員組織を大学院に設置した。今後は、本組織が中心となって学生の人権保障やハラスメント防止への措置を講じていく。
			学生支援担当の委員組織を大学院に設置した。今後は、本組織が中心となって学生の人権保障やハラスメント防止への措置を講じていく。
キャリア支援に関する組織体制を整備し、進路選択に関わる指導・ガイダンス	研究指導教員および院内設置した学生支援担当の組織委員が中心となっ	研究指導教員および院内設置した学生支援担当の組織委員が中心となっ	学生支援担当の委員組織を大学院に設置した。今後は、本組織が中心となって学内キャリア支援センターと連携してキャリア支援活動を行っていく。

	を実施する。	て、キャリア支援の充実を図っていく。	て、キャリア支援の充実を図っていく。	学生支援担当の委員組織を大学院に設置した。今後は、本組織が中心となって学内キャリア支援センターと連携してキャリア支援活動を行っていく。
	学生支援の適切性について定期的に点検･評価し、その結果をもとに改善･向上に向けた取り組みを行う。	大学基準協会等によって学生支援の適切性について定期的に点検・評価を受けると共に、その結果を基に改善・向上に向けて取り組んでいく。	大学基準協会等によって、学生支援の適切性について定期的に点検・評価を受けるとともに、その結果を基に改善・向上に向けて取り組んでいく。	学生支援担当の委員組織を大学院独自に設置した。今後は、本組織による種々の学生支援活動の適切性をマニフェスト作成時に定期的に検証・改善していく。
				学生支援担当の委員組織を大学院独自に設置した。今後は、本組織による種々の学生支援活動の適切性をマニフェスト作成時に定期的に検証・改善していく。
［社会連携・社会貢献］ 教育の理念･目的を実現するために、社会連携･社会貢献に関する方針を明確にし、その方針に沿って社会との連携に配慮し、教育研究成果を広く社会に還元する。	社会へのサービス活動、地域交流･国際交流事業への積極的参加など、学外組織との連携協力による教育研究を推進し、教育研究成果を適切に社会に還元する。	連携協定施設である病院や医療センター、PMDA等との連携活動を継続させると共に、各々の担当教員が実施してきた共同研究を発展させ、その成果を論文やマスコミ、HP等を通じて公表する。	グローバル化促進として留学生等の受け入れについて検討するとともに、大学院メンバーによる国際学会等での情報交流・成果発表を促すことで国際活動能力の向上を図っていく。	これまでに大学院教員が個々に実施してきた他組織との共同連携関係を発展させ、教育研究成果の社会還元の一環として、得られた学術成果を論文や学会等を通じて公表した。
				これまでに大学院教員が個々に実施してきた他組織との共同連携関係を発展させ、教育研究成果の社会還元の一環として、得られた学術成果を論文や学会等を通じて公表した。
	グローバル化促進として、留学生の積極的な受け入れ、さらに外国人研究者活躍の場を広げ、本学の構成員の国際的活動能力の向上を図る。	グローバル化促進のために留学生等に対する受け入れ体制について検討するとともに、国際学会等での情報交流・成果発表を促すことで国際活動能力の向上を図っていく。	グローバル化促進のために留学生等に対する受け入れ体制について検討するとともに、国際学会等での情報交流・成果発表を促すことで国際活動能力の向上を図っていく。	グローバル化の一環として、国際学会等での情報交流や学術成果の発表を積極的に行い、国際活動能力の向上に向けて活動した。
				グローバル化の一環として、国際学会等での情報交流や学術成果の発表を積極的に行い、国際活動能力の向上に向けて活動した。
【2019年度大学院・大学の主要事業計画と改革の重点事項】				

［特色ある取り組み］ 社会を意識して学び、学生自らが成長を実感できる教育改革、充実した学生生活支援、新たな価値を創出する地域連携活動などを通して、本学の魅力や教育・研究の質を高め、個性を磨いて差別化を図るため、特色ある大学改革を推進する。**「未来社会を力強く生き抜く人材を育成し、地域と共に輝く大学」**を目指し、全教職員がベクトルを合わせて下記の重点課題に取り組み、目標達成に向けて努力する。 （１）教学ガバナンス・マネジメントの強化による内部質保証：組織的な大学改革への取り組み （２）3ポリシーを具現化した教育改革による学びの保証： カリキュラムマネジメント体制の構築 （３）満足度向上に繋がる学生生活・修学・キャリア支援体制の強化：学生調査に基づく改善整備 （４）新入試制度の構築と効果的な入試広報活動：優秀な学生の確保と学生定員の厳格化 （５）地域活性化に繋がる教育・研究ブランド力の強化：地域貢献力とグローバル化の推進	①大学・短大改革の将来構想：10年先を見据えた大学・短大組織のあり方、将来構想案を策定する。②IR機能の強化：学内外の情報を収集、解析、管理、公開し、戦略的な大学改革や広報活動へ活用する。③教学・事務組織の再編：教学・事務組織の充実・効率的運営、業務の合理化、教職協働体制の充実を図る。④センター構想：幼保教職支援及び教養教育の効率的な運営組織へ改組、兼任教職員を配置して支援強化する。⑤FD・SD活動等の活性化：FSD研修会の開催、学外研修会参加の推奨による教職員の資質向上を図る。⑥教員業績評価制度改革：教育、研究、社会貢献、学内貢献等のきめ細かな評価で賞与等へ反映する。⑦PDCAサイクルの検証：外部評価委員や学内学生の参画による自己点検・評価・改善制度を構築する。⑧国の政策・事業への対応：高等教育無償化要件、私立大学等改革総合支援事業に全学的に取り組む。	⑤FD活動等の活性化：大学院の中に自己点検・FD担当の委員組織を設置すると共に、大学院主催のFD研修会を通じて教員の資質向上を図る。	⑤FD活動等の活性化：大学院の中に自己点検・FD担当の委員組織を設置すると共に、大学院主催のFD研修会を通じて教員の資質向上を図る。	本年度は、大学院の中に各種委員組織（学生生活担当、教務担当、広報担当、自己点検FD担当、入試担当）を設置し、本組織が中心となって、研究科長や研究指導教員と連携して担当活動を実施し、大学院全体の質向上につとめた。
				本年度は、大学院の中に各種委員組織（学生生活担当、教務担当、広報担当、自己点検FD担当、入試担当）を設置し、本組織が中心となって、研究科長や研究指導教員と連携して担当活動を実施し、大学院全体の質向上につとめた。加えて，教員組織の編制方針の策定，大学院独自のFD活動，研究倫理研修などを行うことによって，教員の資質向上をはかった。
	①3ポリシーの定期点検：3ポリシーに対応したアセスメントポリシーを策定し、毎年定期的に点検評価する。②カリキュラム改革：DPに基づく体系的カリキュラム（カリキュラムマップ／ナンバリング）へ改訂する。③履修指導の徹底：シラバスの第三者チェックを徹底し、個々の学生に対応したきめ細かな履修指導を行う。④新しい教育方法の実践（ICT教育、アク	①3ポリシーの定期点検：4ポリシーに対応したアセスメントポリシーを策定し、毎年定期的に点検評価する。②カリキュラム改革：DPに基づく体系的カリキュラム（カリキュラムマップ／ナンバリ	①3ポリシーの定期点検：5ポリシーに対応したアセスメントポリシーを策定し、毎年定期的に点検評価する。②カリキュラム改革：DPに基づく体系的カリキュラム（カリキュラムマップ／ナンバリ	研究科としての取り組みについて、点検・評価を行って下さい。

	新しい教育方法の実践:ICT教育、アクティブラーニング、PBL、反転授業などを全学的に推進する。⑤学生相互学修支援の促進:SA・TAやピアサポート、学修支援体制を構築し、指導学生の育成を図る。⑥学生が成長を実感する教育改革:学生の基礎力診断を継続実施し、学生・教職員への周知、活用推進を図る。⑦学修成果の可視化:アセスメントポリシーの評価基準を策定し、GPA制度の活用などで多面的に評価する。⑧学びの保証体制:授業評価アンケートの活用を促進し、学修ポートフォリオの全学導入を検討する。	ング)へ改訂する。③履修指導の徹底:シラバスの第三者チェックを徹底し、個々の学生に対応したきめ細かな履修指導を行う。④新しい教育方法の実践:ICT教育、アクティブラーニング、PBL、反転授業などを全学的に推進する。⑤学生相互学修支援の促進:SA・TAやピアサポート、学修支援体制を構築し、指導学生の育成を図る。⑥学生が成長を実感す	ング)へ改訂する。③履修指導の徹底:シラバスの第三者チェックを徹底し、個々の学生に対応したきめ細かな履修指導を行う。④新しい教育方法の実践:ICT教育、アクティブラーニング、PBL、反転授業などを全学的に推進する。⑤学生相互学修支援の促進:SA・TAやピアサポート、学修支援体制を構築し、指導学生の育成を図る。⑥学生が成長を実感す	①，② 3ポリシーの点検を目的として，より適切で継続性・順次性のあるカリキュラムツリーにするために，教育開発センターアドバイザーの池田先生作成の資料を題材に見直しに向けてのアドバイスを受けた。次年度より本資料を基にカリキュラムツリーの見直しを進める。③大学院内に教務担当の委員会を設置し，本委員会を中心に，関係部局（教務課など）と連携しながら履修申請や単位認定などを適正に行った。⑤学内に設置されているTA制度を大学院生が活用しており，研究のみならず教育面でのキャリアアップをはかっている。
	①徹底した学生調査:入学時、卒業時、卒業後アンケート・インタビューを実施して、大学運営改善に繋げる。②キャンパスアメニティの充実:施設設備の充実、老朽化した設備の改修・更新、施設の有効活用を推進する。③学生生活実態調査活用:調査結果の解析を踏まえた課題抽出、改善策を検討し、学生への周知、改善を図る。④キャリア支援の強化:キャリア教育充実、学内インターンシップ制度の導入、就職率80％以上を達成する。⑤学生相談への支援体制強化:担任制度による定期的な学生面談を徹底し、メンタルサポート体制を強化する。⑥障がい学生支援:障がい者学修支援体制、施設の充実を図り、保健管理センターの支援体制を強化する。	①徹底した学生調査:入学時、卒業時、卒業後アンケート・インタビューを実施して、大学運営改善に繋げる。②キャンパスアメニティの充実:施設設備の充実、老朽化した設備の改修・更新、施設の有効活用を推進する。③学生生活実態調査活用:調査結果の解析を踏まえた課題抽出、改善策を検討し、学生への周知、改善を図る。④キャリア支援の強化:キャリア教育充実、学内インターンシップ制度の導入、就職率80％以上を達成する。⑤学生相談への支援体制強化:担任制度による定期的な学生面談を徹底し、メンタルサポート体制を強化する。⑥障がい学生支援:障がい者学修支援体制、施設の充実を図り、保健管理センターの支援体制を強化する。	①徹底した学生調査:入学時、卒業時、卒業後アンケート・インタビューを実施して、大学運営改善に繋げる。②キャンパスアメニティの充実:施設設備の充実、老朽化した設備の改修・更新、施設の有効活用を推進する。③学生生活実態調査活用:調査結果の解析を踏まえた課題抽出、改善策を検討し、学生への周知、改善を図る。④キャリア支援の強化:キャリア教育充実、学内インターンシップ制度の導入、就職率80％以上を達成する。⑤学生相談への支援体制強化:担任制度による定期的な学生面談を徹底し、メンタルサポート体制を強化する。⑥障がい学生支援:障がい者学修支援体制、施設の充実を図り、保健管理センターの支援体制を強化する。	研究科としての取り組みについて、点検・評価を行って下さい。 ①文科省が中心となって行った学生対象のアンケート調査に積極的に参加するよう周知した。④大学院生の大半は既に定職に就いており，将来のキャリアアップのために本学での学びを有効に活用するよう指導している。⑤大学院内に学生生活を支援する委員会組織を設置しており，実質的な担任でもある研究指導教員と本委員会組織が中心となって学生生活をバックアップするようにしている。⑥必要に応じて，保健管理センターと連携して院生支援を行う体制となっている。

	①入試制度改革:2020年度新入試制度に向けた本学の入試要項を検討して、HP等で公表する。②入学者選抜実施体制の点検:入学者選抜の評価、入学者の追跡調査等により選抜方法の妥当性を検証する。③入学前教育:入学前科目別通信教育により基礎学力を強化し、プレイスメントテストを実施する。④情報公開、広報活動:HPや大学ポートレート、オープンキャンパスを充実し、幅広い広報活動を展開する。⑤高大接続:指定校の見直し、定期的な高校訪問、協議体制を構築し、特に就実高校との連携を強化する。⑥奨学金制度充実:入学者の確保に繋がる奨学金制度、経済的に修学困難な学生への支援を強化する。	①入試制度改革:2020年度新入試制度に向けた本学の入試要項を検討して、HP等で公表する。②入学者選抜実施体制の点検:入学者選抜の評価、入学者の追跡調査等により選抜方法の妥当性を検証する。③入学前教育:入学前科目別通信教育により基礎学力を強化し、プレイスメントテストを実施する。④情報公開、広報活動:HPや大学ポートレート、オープンキャンパスを充実し、幅広い広報活動を展開する。⑤高大接続:指定校の見直し、定期的な高校訪問、協議体制を構築し、特に就実高校との連携を強化する。⑥奨学金制度充実:入学者の確保に繋がる奨学金制度、経済的に修学困難な学生への支援を強化する。	①入試制度改革:2020年度新入試制度に向けた本学の入試要項を検討して、HP等で公表する。②入学者選抜実施体制の点検:入学者選抜の評価、入学者の追跡調査等により選抜方法の妥当性を検証する。③入学前教育:入学前科目別通信教育により基礎学力を強化し、プレイスメントテストを実施する。④情報公開、広報活動:HPや大学ポートレート、オープンキャンパスを充実し、幅広い広報活動を展開する。⑤高大接続:指定校の見直し、定期的な高校訪問、協議体制を構築し、特に就実高校との連携を強化する。⑥奨学金制度充実:入学者の確保に繋がる奨学金制度、経済的に修学困難な学生への支援を強化する。	研究科としての取り組みについて、点検・評価を行って下さい。 ⑥社会人特待生制度が設置されており，その中でライフステージⅡを利用して学費の軽減化がなされており，本年度も数名の院生が利用している。
	①教員の教育研究力の推進:学会、研究論文、HP等による研究成果の情報公開や共同研究を推進する。②科研費等の研究資金獲得の促進:研究費採択率10%増、学内助成制度や外部補助金への申請を促進する。③若手研究者の支援:学内共同プロジェクト、競争的資金制度や褒賞制度を充実し、支援体制を強化する。④地域連携協力推進:産業界や自治体との連携事業を通じた大学の人的・知的資源の積極的な活用を推進する。⑤地域貢献活動促進:地域コミュニティーや企業インターンシップを通じた交流活動を促進・展開する。⑥グローバル化の促進:海外連携協定大学を拡充、交換留学生を増やし、教員海外研修を促進する。	①、②教員の教育研究力の推進：原著論文投稿、マスコミ、HP等を活用して研究成果の情報公開や共同研究、学内研究者同士の連携を推進すると共に、外部研究資金獲得のために新規プロジェクトの提案・申請を促す。	①、②教員の教育研究力の推進：原著論文投稿、マスコミ、HP等を活用して研究成果の情報公開や共同研究、学内研究者同士の連携を推進すると共に、外部研究資金獲得のために新規プロジェクトの提案・申請を促す。	教員の教育研究力推進の一環として、原著論文投稿、学会、マスコミ、HP等を活用した研究成果の情報公開、共同研究、学内研究者同士の連携を行い、特色ある取り組み実現のための基礎固めを行っている。 教員の教育研究力推進の一環として、原著論文投稿、学会、マスコミ、HP等を活用した研究成果の情報公開、共同研究、学内研究者同士の連携を行い、特色ある取り組み実現のための基礎固めを行っている。

◆中期目標・中期計画に基づく各部局年度計画及び実行計画と達成状況の運営について◆

(1)2019年度計画は、就実大学大学院・就実大学中期目標・計画の具体的な取組・実行内容に基づいて計画する。中期目標・計画に関連して、新たな取組がある場合は項目を増やして記載する。

(2)2019年度実行内容は、2019年計画の具体的取組・実行内容を具体的にかつ定量的(数値的)に記載する。

(3)計画達成状況は、年度途中(9月末)、年度末(3月末)に計画の達成状況を部局長及び学長が評価し、次年度計画の参考とする。